

## 国家管轄権を超えた生物多様性に関するハイレベルイベント

### ESD-J 会員のみなさま

2023年6月に「国家の管轄権が及ばない海域における海洋生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する条約」(BBNJ 条約: Agreement under the United Nations Convention on the Law of the Sea on the conservation and sustainable use of marine biological diversity of areas beyond national jurisdiction)が採択されたことは、多国間主義にとって重要な成果であると広く受け止められています。

ベルギーのブリュッセルでブルーリーダーズ・ハイレベル・イベントが2024年3月7日に開催され、各国政府、政府間組織、科学、市民社会の代表者が一堂に会し、この節目を祝い、条約の早期発効に向けた支援を呼びかけました。

2025年6月にフランスのニースで開催される第3回国連海洋会議を、BBNJ 条約の発効を記念するプラットフォームとして活用することで、すべての講演者が合意しました。そのためには、2025年2月までに60カ国が批准しなければなりません。まだ、パラオとチリのみしか協定を批准していません。

このイベントでは、ベルギーのポール・ヴァン・ティグチェルト副首相兼法務・北海大臣が、ベルギーが連邦批准プロセスの第一歩を踏み出したと発表しました。モナコのアルベール2世王子は、モナコが2024年末までに批准プロセスを完了することを目指していることを共有しました。

英国のリチャード・ベニヨン気候・環境・エネルギー担当国務大臣は、英国はBBNJ 条約を遵守するためにどのような法改正が必要かを国レベルで検討しており、開発途上国が同様の評価を行うのを支援すると申し出ていると指摘しました。ドイツ連邦海洋担当委員のSebastian Ungerは、グロー

バル・サウス諸国による海洋保護区(MPA)の特定を支援するため、ドイツの国際気候イニシアティブ(International Climate Initiative)の下でのプロジェクト募集を予定していると発表し、これは条約の実施開始に寄与すると指摘しました。

このイベントの主なポイントは次のとおりです。

- BBNJ 条約は、MPA の指定を通じて、地球規模生物多様性枠組の目的、特に2030年までに陸域、内陸水域、沿岸域および海域の30%を保護するという目標を達成するための鍵となります。
- 海洋と気候の相互関係には様々なものがあり、何人かの講演者は、絶滅危惧種の生息地として、また炭素吸収源としての昆布の森の役割を強調しました。
- 小島嶼開発途上国(SIDS)は、技術移転及びキャパシティビルディングの重要性を強調し、海洋科学を前進させるための国際協力の強化の必要性を指摘しました。また、海洋保護に対する意識を高め、支援を構築するための手段としてのアートの価値を強調しました。
- ベルギーのアレクサンダー・デ・クルー首相は、ブリュッセルでBBNJ 事務局を主催するというベルギーの申し出を強調し、EU 内での条約の迅速な批准を促進するという目的を強調しました。

2024年にベルギーがEU 理事会議長国を務めることの一環として開催されたこのイベントには、数人の閣僚や多くの大使を含む100人以上の参加者が参加しました。

関連 ENB : [https://enb.iisd.org/sites/default/files/2024-03/blue\\_leaders\\_0.pdf](https://enb.iisd.org/sites/default/files/2024-03/blue_leaders_0.pdf)

今後予定される関連イベント

9th Our Ocean Conference: The conference will convene under the motto: “Our Ocean, An Ocean of Potential.” dates: 16-17 April 2024, with a youth summit on 15 April location: Athens, Greece

www: [ourocean2024.gov.gr](http://ourocean2024.gov.gr)

Plastic Pollution INC-4: The fourth meeting of the Intergovernmental Negotiating Committee (INC) to develop an international legally binding instrument on plastic pollution, including in the marine environment, will continue negotiations on the instrument. dates: 23-29 April 2024 location: Ottawa, Canada

[www.unep.org/inc-plastic-pollution/session-4](http://www.unep.org/inc-plastic-pollution/session-4) 2024

UN High-level Political Forum on Sustainable Development (HLPF): This meeting will convene on the theme “Reinforcing the 2030 Agenda for Sustainable Development and eradicating poverty in times of multiple crises: The effective delivery of sustainable, resilient and innovative solutions.” It will include in-depth reviews of SDG 1 (no poverty), SDG 2 (zero Alexander De Croo, Prime Minister, Belgium hunger), SDG 13 (climate action), SDG 16 (peace, justice and strong institutions), and SDG 17 (partnerships for the Goals). dates: 8-17 July 2024 location: UN Headquarters, New York

www: [hlpf.un.org](http://hlpf.un.org)

Summit of the Future: Building on the SDG Summit in 2023, Member States will consider ways to lay the foundation for more effective global cooperation that can deal with today’s challenges as well as new threats in the future. dates: 22-23 September 2024 location: UN Headquarters, New York

www: [www.un.org/en/common-agenda/summit-of-the-future](http://www.un.org/en/common-agenda/summit-of-the-future)

CBD COP 16: The sixteenth meeting of the Conference of the Parties (COP) to the CBD, the eleventh meeting of the COP serving as the Meeting of the Parties to the Cartagena Protocol on Biosafety, and the fifth meeting of the COP serving as the Meeting of the Parties to the Nagoya Protocol on Access and Benefit sharing will convene for the first time since the adoption of the Global Biodiversity Framework. dates: 21 October - 1 November 2024 location: Cali, Colombia

<https://www.cbd.int/meetings> For additional upcoming events, see: [sdg.iisd](http://sdg.iisd)

【参考1】海洋生物多様性ガバナンスの簡単な歴史

近年の科学的情報により、生物多様性の豊かさと脆弱性が明らかになる一方で、漁業、鉱業、汚染、気候変動などの既存および新たな活動によってもたらされる人為的圧力の増大に対する懸念が高まる中、海洋生物多様性の保全と持続可能な利用は、国家の管轄権が及ばない地域も含めて、国際的な関心が高まっています。このような背景から、さまざまな国際プロセスや多国間環境協定が、海洋生物多様性の持続可能なガバナンスに貢献しようと努力しています。

1994年11月16日に発効した国連海洋法条約(UNCLOS)は、海洋、その資源の利用、海洋および沿岸環境の保護に関する国家の権利と義務を定めています。国連海洋法条約は海洋生物多様性に明示的に言及していませんが、海洋に関連するすべての活動の法的枠組みとして一般的に見なされています。

国連海洋法条約は、国連総会がBBNJに関する新しい条約に向けた交渉を招集した条約でもありません。20年近くの交渉を経て、2023年6月にBBNJ条約が採択され、60カ国による批准から120日後に発効します。これまでのところ、条約はパラオとチリによって批准されています。

1993年12月29日に発効した生物多様性条約(CBD)は、生物多様性の保全、その構成要素の持続可能な利用、および遺伝資源の使用から生じる利益の公正かつ衡平な分配を促進することを目的としています。沿岸および海洋の生物多様性に関する CBD の取り組みの中心は、生態学的または生物学的に重要な海域の特定です。2022年、生物多様性条約の締約国は、2030年までに陸域、内陸水域、海洋および沿岸地域の少なくとも30%が、生態学的に代表され、適切に接続され、公平に統治された保護地域のシステムやその他の効果的な地域ベースの保全措置を通じて、効果的に保全および管理されることを保証するという目標を規定するグローバル生物多様性フレームワークを採択しました(30x30ターゲット)。

その他の関連プロセスや制度には、野生動物の移動種の保存に関する条約、国際海底機構、国連気候変動枠組条約の下で

招集された海洋対話、海洋環境を含むプラスチック汚染に関する法的拘束力のある国際的な文書の交渉などがあります。さらに、国連は2017年から海洋会議を開催し、政府やその他の利害関係者を動員して海洋の持続可能性に向けたコミットメントを行っています。さらに、国連総会は、海洋システムの状態の衰退を逆転させ、持続可能な開発の新たな機会を触媒することを目的として、海洋科学と知識創出を刺激するために、持続可能な開発のための国連海洋科学の10年(2021-2030)を宣言しました。

参考2 ブルーリーダーズハイレベルイベント詳細報告は、以下の URL からダウンロードできます。

<https://xgf.nu/HZm8x>